

2014年度 第2回

プレスセミナー報告 2014年8月1日開催

テーマ「法曹養成制度改革の議論状況と今後について」

報告者 梶嶋裕之会員，道あゆみ会員

今年度第2回目のプレスセミナーは、法曹養成制度改革をテーマに、日弁連法科大学院センター副委員長の梶嶋裕之会員と、日弁連事務総長付特別嘱託の道あゆみ会員を講師に迎えて行われた。マスコミからは、3社から3名の論解説委員・記者の参加があった。

初めに、梶嶋会員から、法科大学院を中核とする法曹養成制度の創設とその後の経緯について説明の上、法曹人口、法科大学院、司法試験、予備試験、司法修習の現状について報告がなされた。その後、法曹志望者の減少に歯止めをかける緊急の必要性について指摘の上、改革の出口に向けた取組みの具体的なイメージについて報告がなされた。

次に、道会員から、法曹養成制度改革と密接に関わる弁護士活動領域の拡大に向けた取組みについて、解説がなされた。

続く質疑応答では、マスコミ側から、「司法制度改革は弁護士が社会生活上の医師として社会の隅々にサ

ービスを提供していくということを掲げてやってきたはずだが、日弁連として新しい領域の拡大への対策が十分ではなかったのではないか」、「2001年の司法制度改革審議会の意見書は、趣旨は良かったが、合格者の人数が問題だったと思う。昔はフランス並みに3000人という形で算出をしていたが、今からみれば、随分簡単に数字を出していたと思う。最近、法曹養成制度改革顧問会議でニーズのアンケート調査が出されているが、そこからどのように適正な人数を算出すればいいのか」、「学生の中には、大学（学部）の4年間に予備試験を受けて、その時に予備試験に受からないなら公務員になるという人がいる。予備試験を制限すると、志願者が減るといったことはないか」、「法科大学院のある大学の法学部で予備試験対策をやっているのは、矛盾しているのではないか」等の質問が出されて、活発な意見交換がなされた。

（広報室嘱託 伊藤 敬史）